

ぼくのおにぎりができるまで

印西市立滝野小学校 五年 吉田 直将

「よし、今日もがんばるぞ」

これは、ぼくが朝食を食べ終わったあとの言葉だ。ぼくの朝食はいつもおにぎりだ。なぜなら、米を食べないと力がでないからだ。ぼくがおにぎりがいい、と言。てからは毎朝おにぎりを出してくれる。

そんなお米が大好きなぼくに、母さんは田植え体験をさせてくれた。田んぼに行ったら

カエルやヤコがいて生命があふれていた。農家さんは

「苗を育てるのが大変なんだよ。苗を強くする

ことで稲も強くなるんだよ」。

と教えてくれた。しかもそこでは無農薬栽培

をしているらしい。すごいな、ぼくがミニト

マトを家で育てるときだって葉に害虫がつか

ないスプレーをかけたのにな、と思った。で

もなんでそんなに手間がかかるのに、無農薬栽培をしているのだらう、と思った。

「田は生命が生きる大切な場所なのに、農薬をまくと、その生命がいなくなってしまうからだよ。」

と話してくれた。こうして食べているお米は農家さんの努力の結晶なんだな、またやりたいなと思った。

次は母さんが稲刈り体験に行かせてくれた。「かまをまわすように稲に当てると簡単に切れるよ。」

と農家さんは、教えてくれた。それをやって

みたら、ざくざくと切れた。これがぼくのおにぎりになるのか、そう思った。こうしてぼくはも、と米が好きになっただ。

最近学校で庄内平野の米作りをならった。

直まきという方法があって、種を直接田に植えるらしい。メリットは一番苦労する苗を育てる作業が減ることだが、デメリットは発芽するかどうかわからない、という点だ。大変な農家さんの負担を減らせるのはいいことだと思っただ。少し気になったのがなぜ過去に米

が不足した時期があったのだろうかというこ
とだ。調べてみると、やませという北東から
ふく冷たい風が稲をだめにする冷害が発生し
たのが原因だった。そのため多くの米が作ら
れていった東北地方の米がだめになっ
てしまったため米が不足したらしい。そして最近では
冷害を防ぐための方法があるという。それは、
水位を上げることだ。水は温まりにくく冷め
にくいからだそう。ほくがおにぎりを食べ
らるるのは、農家さんの努力と工夫があるか
らだとわかった。

田植えと稲刈り体験をして、わかったこと
がある。ほくが毎朝食べているおにぎりは一
つづ一つづの努力の結晶なんだということだ。
これからもお米を食べて一日をがんばり、そ
して農家さんを応援していきたい、と思っ
ます。